



**KANSAI
UNIVERSITY**

教職支援センター一年報

2015

関西大学 教育推進部
教職支援センター

『教職支援センター年報 2015』目次

投稿原稿

<小論文>

- ループリックを活用した初年次のレポート指導 関西大学文学部教授 安藤 輝次…… 1
中学校社会科地理的分野における苦手意識の偏在状況と
その改善に向けた提案 京都教育大学教授 香川 貴志…… 7

<報告>

- 「アクティブ・ラーニング」の実践からの教員の資質
についての考察・報告 非常勤講師 尾崎 進…… 12
今、教職を目指す人たちに伝えたいこと－「教職実践演習」
の授業を中心に 非常勤講師 椎口 育郎…… 19
報告 大学生のための国語教室－国語科教育法の課題 非常勤講師 梶井 英人…… 32

<教職支援センター特任教授からの報告>

- 教育実習に関する指導について ～国語を例として～ 特任教授 小野満由美…… 38
「教職実践演習」についての一考察 その2
－『課題別グループ研究及び報告会』－ 特任教授 北井 宏昌…… 44

1. 教員の養成の目標

関西大学教職支援センターの基本理念…………… 47

2. 教員の養成に係る組織

教員の養成に係る組織…………… 48
教職支援センター規程…………… 49

3. 教員の養成に係る授業科目

教職に関する専門教育科目および科目担任者一覧…………… 51

4. 教員免許状の取得の状況

各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科…………… 56
介護等体験 参加者数…………… 58
中学校・高等学校教育実習生数…………… 59
教員免許状取得状況・免許取得者数一覧（学部・大学院）…………… 60
教員免許取得までの諸手続き…………… 67

5. 教員への就職の状況

教員採用試験合格者状況・合格者数…………… 68
教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果…………… 71

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

中期行動計画について…………… 72

介護等体験事前指導について	73
2年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について	74
3年次生対象「教育実習ガイダンス」について	76
教員養成フォーラムについて	78
教員採用試験合格者との情報交換会について	80
教職専門科目担当者研究会について	82
教員採用試験合格者壮行会について	83
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～	84
教員採用試験 面接対策セミナー	86
教員採用試験 受験案内一覧	87
教員採用試験対策スケジュール	89
教職支援センター 利用状況	90
教職関係ガイダンス日程	92
教育実習出向指導校一覧	93
教職支援センターと初等教育学専修との連携について	96
教員養成のための豊能地区3市2町教育委員会との連携協力について	97
7. その他	
教員免許状更新講習一覧	98
教職支援センター年報 投稿規程・執筆要領	99
教職支援センター委員会委員名簿	101

「教職実践演習」についての一考察 その2

— 『課題別グループ研究及び報告会』 —

教職支援センター 特任教授 北井 宏昌

教員免許状取得希望学生が4年生秋学期に履修する「教職実践演習」について、昨年、『教職支援センター年報 2014』で、私の問題意識と授業実践を報告した。

「教育実習(二)」を核とした「教育実習事前指導」と「教職実践演習」の三科目は、一つの教職科目であると捉え、この間の研究と教育実習の実践を踏まえ、受講生が明確な課題を持ち、自ら課題解決に取り組むことで、教職への高い意識と情熱を発揮することができる、と考えている。「教職実践演習」をより充実させるため、本講義15回の内、中6回を『課題別グループ研究及び報告会』と位置付け、受講生が主体的に学び、文字通り教職に関してより実践的な演習が展開できるよう取り組みを進めている。

1、受講生の実態	【受講生 全35人】
・教職希望者	12人 (34.3%)
・大学院希望者	5人 (14.3%)
・企業就職者	18人 (51.4%)

2、課題設定とグループ編成

「教育実習事前指導」の学びと教育実習での実践を踏まえて、受講生一人ひとりに教育課題についてのレポートを求め、多様な課題の具体的内容について議論する場を設定する。この時、レポートから読み取れる受講生の問題意識や関心が、㊦教師観、㊧授業観、㊨子ども理解の三観点に集約できることを示し、各観点毎に、課題となる内容をキーワードにして3項目、計9項目を提示する。受講生は、自らが課題とする内容項目を選択して、共通の問題意識を持つ者でグループを編成のうえ、グループのテーマを設定する。この活動を踏まえることで、本演習の趣旨が明確になり、受講生の議論が活発になり、主体的な研究の取り組みに発展するものと、考えている。

全10グループのテーマは下記の通りである。グループは3人～5人で編成する。

㊦教師観	① 教師の専門的知識の重要性
	② 教育実習から見えた、ゆとりのない教師
	③ 教師の労働時間
	④ 教師間で良い人間関係をつくるためには
㊧授業観	⑤ 興味を惹く授業の重要性と、生徒参加型授業の効果
	⑥ 自主性のある取り組みとは
㊨子ども理解	⑦ 生徒と信頼関係を築く重要性とその方法
	⑧ 生徒理解について
	⑨ 次につながる指導 ―叱り方とほめ方―
㊩学校観	⑩ 学校教育における価値観

報告会終了後、受講生は本講義での『課題設定とグループ編成』の活動に関して、下記のように感想を述べている。

- ・自分が関心のある課題を選ぶことができ、尚且つ、同じ関心を持つ仲間と協力して考えることができたので、取り組みやすさを感じました。課題を選択できた点が、大変良かったと思います。(T. M.)
- ・自分が課題と考えたことや興味のあることについて、志を同じくする人と深く話し合うことができて、とても有意義でした。(T. K.)
- ・各グループの中で各自役割を決めて研究内容に取り組んでいたのも、みんなが何かしら、目的を持って取り組めたのではないかと思いました。(O. A.)
- ・同じような課題に関心がある者同士がグループで、同じ課題でありながらも異なる意見が聞けたので、自分の考えがより深まった気がします。(K. S.)
- ・事前のレポートに基づいてグループ分けがされたので、自分の思いや問題点をディスカッションに昇華できて有意義でした。それぞれのグループが非常に深く課題探究に取り組んでいたのも、するのも聞くのも勉強になりました。(M. T.)

3、研究方法、研究内容、報告会

受講生が、教育実習を通して教師の立場で学校教育の現状を見聞きし、体験することで、それまで抱いていた理想とする学校像や教師像とのギャップに改めて気づくことになる。この現状を積極的に受けとめ、なお理想を追求しようと肯定的に働きかける者、批判的な見方をする者、さらに、教師の視点から改善策を提案する者がいる。

各グループの研究・討議は、それぞれの教育実習での経験を振り返り、話し合うことを基にして、関係資料や書籍、現職教員へのインタビューやアンケート調査、さらに、インターネット上の情報を活用して行っている。

以下に、三つのグループの取り組みを紹介する。

②『教育実習から見えた、ゆとりのない教師』グループは、教職希望2人、企業就職1人の取り組みである。それぞれの教育実習の経験を「実習校の実態」、「エピソード」「振り返り」そして「考えられる改善策」の項目で討議し、まとめている。問題行動への対応や授業中の荒れに見られる生徒指導の重要性と授業に専念できる学習環境整備の観点から、学校業務の明確化と学校の組織化について、改善策を述べている。

③『教師の労働時間』グループは、企業就職2人、大学院希望1人の取り組みである。教育実習で教師の多忙さを見て、この現状で良い教育ができるのかという問題意識で、他の国々の現状や取り組みと日本の現状を比較、検討して、改善策を述べている。

問題意識は教育実習の経験から出てはいるが、研究方法は統計資料やインターネット情報に頼らざるを得ない。「教員1人に対する生徒の割合」「教師の労働時間とその内訳」「教員の働き」について、フィンランド・中国・フランスと日本を比較して、最後に、「教員の自己効力感」に関する8項目を検討し、まとめている。

⑩『学校教育における価値観』グループは、視覚障害のTさんと教職希望2人の取り組みである。Tさんが教育実習で聞いた「まるで見えているかのように・・・」という言葉

を基に、3人それぞれが、小・中・高、そして大学での学校教育の経験を通して、自己の生き方と共に理想とする教育を語り合い、それぞれの問題意識として、学校教育で育成される正しさや価値観、進路指導に表れる教師の指導のあり方、良い教師のあり方についてまとめている。

特に、このグループは、講義時間の他数回にわたって自主的に話し合いを持ち、議論を深めて取り組むことができている。報告に対する質疑も活発に行われている。

4、受講生の意識調査

本講義終了時、受講生全員に、この『課題別グループ研究及び報告会』の取り組みについてアンケートをとり、感想を求めた。

問1として「課題別グループ研究及び報告会は、有益な授業であるか」については、
㉞大いにそう考える…20人 ㉟そう考える…12人 ㊱どちらとも…2人 ㊲そう考えない…1人 ㊳全然考えない…0人 である。91, 4%が有益と回答している。

㊲そう考えない と回答した受講生は、下記のような意見を述べている。

・様々なテーマに関して報告を聞いたことについては有益だと思いましたが、意見が偏り過ぎて一般的とは言えないと感じました。教育を批判しているだけと感じる場面があり、気持ちの良いものばかりではなかったです。(T. S.)

問2として「次の5観点について教えてください」については、

- ・自ら進んで積極的に取り組んだ。 ㉞13人 ㉟18人 ㊱4人 ㊲0人 ㊳0人
- ・自らの報告内容に満足している。 ㉞8人 ㉟16人 ㊱4人 ㊲5人 ㊳2人
- ・他の報告から学ぶことができた。 ㉞26人 ㉟8人 ㊱1人 ㊲0人 ㊳0人
- ・グループのテーマは適正である。 ㉞18人 ㉟14人 ㊱3人 ㊲0人 ㊳0人
- ・6回の授業は適正な時間である。 ㉞12人 ㉟15人 ㊱5人 ㊲3人 ㊳0人

以下、まとめにかえて、この『課題別グループ研究及び報告会』の取り組みについて受講生の感想を記載する。

- ・多様な観点から様々な考え方で「教育」を見つめており、自分一人では気づくことができなかつた新たな視点を発見できて、大変有意義に感じました。(S. T.)
- ・3週間の教育実習を必死に頑張ったからこそ伝えたいことがある。自分自身の考え方を再確認することができ、人に知ってもらう良い機会になった。(S. S.)
- ・他のグルーの報告に関しては、深く考えているところ、そうでないところもあったが意見交流も含め、様々な考えを知ることができ新鮮であった。(T. M.)
- ・文系の人と一緒に学ぶ機会がとても新鮮でした。自分にはない考えを聞くことができ、すごく考えさせられることもあり、プラスになる授業でした。(T. E.)、
- ・自分のグループのテーマが答えのない課題であったこともあり難しかった。もう少し的確な解決方法のようなものを見出したかった。(S. Y.)